

瓦谷山



瓦谷山だより



vol.45

発行日 2020年12月10日
発行人 (宗) 真光寺
岡本和幸
印刷 現代社
編集 (宗) 真光寺

問い合わせ先
(宗) 真光寺
TEL 0438-75-7414

○お寺HP
<http://www.shinko-ji.jp/>
○上総自然学校HP
<http://www.shinko-ji.jp/satoyama/>
○お寺ブログ【瓦谷山だより】
<http://shinkoji.cocolog-nifty.com/news/>

年初の中国武漢での惨状に始まり、緊急事態宣言、夏の再流行と、新型コロナ禍に振り回された一年もそろそろ終盤となりました。日本は公衆衛生意識と自主管理能力の高さによって感染爆発までは至らず、辛うじて踏みとどまってきた感のある日本も、二度目の冬を迎えます。これまでインフルエンザで毎年一万人が亡くなるといわれてきましたが、いまだ全貌のつかめない疫病は、人間の原初的な病気への恐怖を浮き彫りにしたように思います。攻撃的な行動をとる人々の姿もさまざまに報道されましたが、どんなに気をつけても罹患する可能性があるのが疫病です。差別的、攻撃的な言動は厳につつしみたいものです。

さて、そんなコロナ禍の中ではありませんでしたが、さる十月十三日、神奈川県横浜市鶴見区の曹洞宗大本山總持寺の御征忌において焼香師を勤めさせていただきました。御征忌とは一般のお寺でいう開山忌に当たります。曹洞宗で高祖道元禪師とともに両祖と仰ぎます總持寺を開かれた太祖瑩山禪師様と、そのお弟子の峨山禪師様をお慕いする法要で、本来ならば全国から僧侶が参集して行われます。その御征忌での一法要の導師を勤めさせていただいたわけですが、今年は感染拡大防止のため、御本山の修行僧のみで行われました。焼香師をお勤めする僧侶も近隣、内部から選出するということで、私にお声が掛かったようです。通常は広く檀信徒の皆様にお知らせし、共にお参りするのですが、今回は三十名限定という厳しい縛りがあり、真光寺役員・婦人会の皆様、また日頃から各種行事にご参加いただいております皆様限りお声がけをいたしまして、僧侶も含めきっちり三十人でお参りさせていただきました。

お勤めしたのは「五院二十五哲輪住独住禪師献供諷經」という法要でした。瑩山禪師様のお弟子には優秀な方が大勢おられ、その中でも特に徳の高いお弟子が、總持寺の門前に五院という塔頭寺院を建て、その住職が順番に總持寺の住職を務めるという輪住制で總持寺を守っていく制度が作られました。瑩山禪師様のお弟子の中でも瑩山二神足ともいわれる峨山禪師、明峰禪師には特に優秀なお弟子が多く、その後の曹洞宗教線拡大を主導されました。峨山禪師様には、「二十五哲」といわれる二十五人のすぐれたお弟子がおられました。峨山禪師の系統の寺院は全国に一万六千ヶ寺

あったともいわれ、「伽藍は峨山」とも言われます。その中でも通幻禪師にはさらに「通幻十哲」といわれる十人のお弟子がおられ、全国に教線を伸ばし、通幻派九千ヶ寺といわれる一大勢力を作り上げました。真光寺も、もとをたどればこの流れに行き着きます。通幻十哲のお一人である了庵禪師は道了尊として知られる小田原の大雄山最乗寺の御開山ですが、そこから三代下った密山禪師は木更津に真如寺を開かれました。その真如寺の八世住職鷹山巖召禪師により、弘治二年（一五五二年）九月八日、この川原井の地に開創されたのが真光寺です。

一方の明峰禪師は「法の明峰」といわれ、人を育てることに長けていたそうです。私も明峰禪師の流れをくむ系譜の末席におります。つまり真光寺の檀信徒の方々が授戒されて仏弟子になると、明峰禪師の系譜に名を連ねることになるのです。

瑩山禪師様の流れをくむお弟子様方がそれぞれ布教活動に精進され、全国各地に教えを広められたことにより、今日の曹洞宗の基盤が築かれました。その御遺徳を慕う法要において祖師方にお茶やお菓子をお供えし、報恩のお香を焚いて礼拝ができましたことに大変感動いたしました。この法要はおそらく峨山禪師達が亡くなった直後から、六百年以上続けられてきた法要だと思えます。法孫たちが全国から集まり、先人に供養することで、自らの足元を見つめ直したのであろうと思えます。その教えは正しく継承されているか、その教えに従って修行しているか、その教えの中で世の中を明るく照らしているか、と。異例づくめの中勤めさせていただいたお役でしたが、全国に教えを広めた先達の遺徳に思いをはせ、自らの行いを返照する良い機会となりました。いつになることやら先は見通せませんが、よりおおぜいの檀信徒の皆様と、安心して御本山にお参りできる日がくることを願っております。

まもなく新たな年を迎えます。当山では元旦より、先ごろ完成した薬師堂で、新たに購入した二・五尺の大太鼓を打ち鳴らし、年頭祈禱を厳修いたします。コロナ禍の終息を願い、皆様の御多幸を祈念する御祈禱です。で、感染予防にご配慮の上御参詣くださいますよう、山内一同心よりお待ちしております。

真光寺住職 岡本和幸
合掌

行事報告

◇孟蘭盆施食会・秋季彼岸会

八月九日に山門施食会、七月七日・八月十一日に縁の会施食会を、九月二十二日、山門彼岸会、縁の会彼岸会を厳修致しました。今年には新型コロナウイルス感染症拡大のため、檀信徒や縁の会会員の皆様にご参集頂いての法要の開催が危ぶまれました。しかし、マスク着用やアルコール消毒、座席の間隔を広く空けるといった感染予防対策の他、食堂にプロジェクト及びスクリーンを設置し、今年完成した薬師堂と食堂の二ヶ所で法要に参加できるようにして、無事に行うことが出来ました。



八月十一日の縁の会施食会法要はYouTubeでライブ配信も行いました。下記QRコードよりご覧いただけます。



◇大本山總持寺御兩尊御征忌

「ごあいさつ」にもありますように、去る十月十三日、当山の住職が大本山總持寺御兩尊御征忌の焼香を勤めました。その様子をご報告いたします。

法要は午前十時半頃、大祖堂において厳修されました。堂内に荘厳な鐘の音が響き渡る中、まず焼香師がお役の僧侶に先導され、上殿するところから始まりました。

堂内に入ると直ぐに須弥壇の横に移動し、水で手を清めて登壇。御開山である瑩山禅師さま、二祖峨山禅師さま及び歴代の祖師方にお拝しました。続いて献供。蜜湯・御飯・菓子・御茶の順番での



法要が行われた千畳敷の大祖堂

お供えです。その後焼香し、祖師方に対しての報恩感謝の意が込められた法語を恭しく述べました。法語の後は読経となり、お役の僧侶が回向し、焼香師が退堂して法要は終了。引き続き法要にご参加いただいた皆様の先祖供養となりました。導師を勤められたのは、總持寺の監院老師。皆様にもご焼香をしていただきました。



法要の要である献供



法語を述べる住職



大本山總持寺大祖堂前での記念写真

樹木葬墓苑 第4期エリア開苑

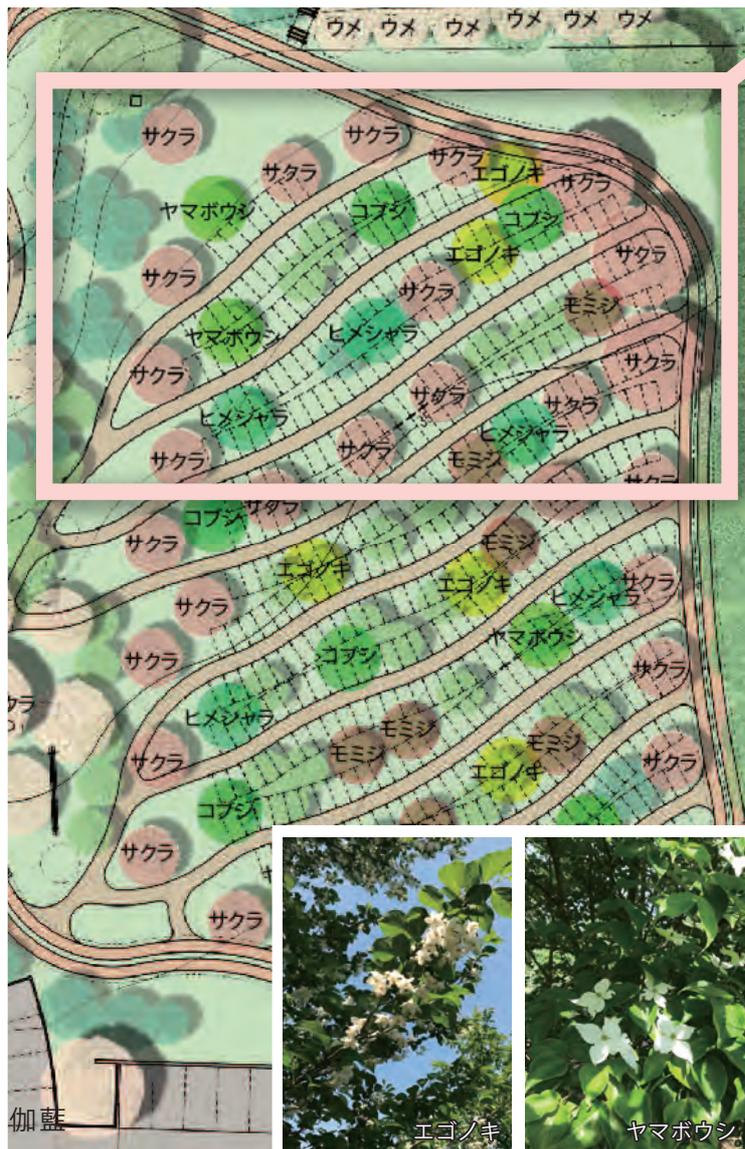
第4期エリア全体イメージ

これまでのエリアが斜面地だったのに対し、第4期は平坦です。伽藍からも近く、庭園の続きに位置しますので、少しお庭のイメージに近い景観づくりを行います。

植栽の基幹となる高木類は、サクラの他にエゴノキ、ガマズミ、ヒメシャラ、ヤマボウシ、サンシュユなどが入ります。サクラは、ソメイヨシノを中心にヤエザクラなどの品種ものを予定しています。この他に低木類を順次追加いたします。



第4期エリア



2020年開苑区域

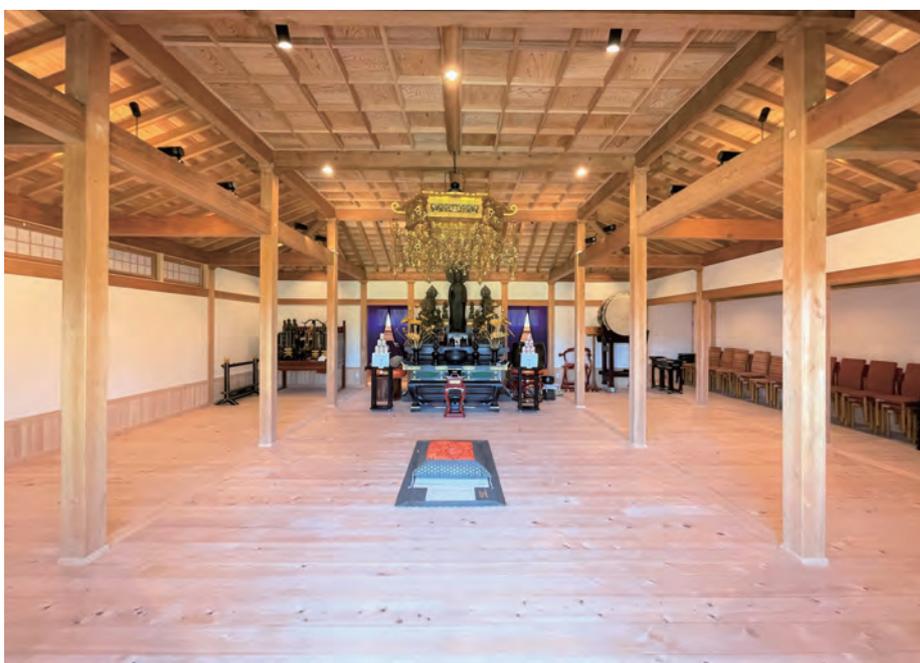
第4期全体の面積は、約1,300坪(4,300㎡)です。開苑は二回に分けて行います。本年開苑する予定は第4期全体の約1/3の区域。(左図)区画数は、150区画です。これまでと同じように1区画の面積は約一坪ありますので、ご家族でしたら何人でもお使いいただけます。

第4期エリアの植栽樹種の例



慈嶽堂完成

平成三十一年四月、擁壁工事から始まり、一年三ヶ月を経て、ついに慈嶽堂が完成しました。寺報四十号にて建物の名前について掲載いたしました。建物の名称は、慈嶽堂（じがくどう）とし、一階部分は坐禅堂（ざぜんどう）、二階部分は薬師堂（やくしどう）と名付けました。正面の『慈嶽堂』の額は東長寺と真光寺住職に縁の深い遠藤弘隆老師に揮毫して頂きました。



二階部分の薬師堂には、今まで真光寺の中心として仏殿に安置されていた薬師如来がお引越され、その周りには皆さまより御奉納頂いた四天王と十二神将を配し、薬師如来をお守りしています。右の写真の通り、中はとても開放感があります。法要の際には最大で八十名程が参加することが出来ます。現在は新型コロナウイルス禍ということもあり、ソーシャルディスタンスをとるため、参加者が八名以上の年忌法要は薬師堂で行っております。ご希望があれば八名未満でも薬師堂で行ないますので、是非お申し出下さい。

一階部分、坐禅堂の中心には、智慧の仏として知られる文殊師利菩薩をお祀りいたしました。曹洞宗の修行道場の要である僧堂や坐禅堂の中心には、多くは僧侶の姿をした僧形文殊菩薩が祀られています。当山の文殊様は獅子の上に座り、きらびやかな装飾品を身につけ、右手には剣を、左手には経典を持った姿をしております。坐禅堂は内堂と外堂に分かれていて、内堂には二十八名、外堂には八名、計三十六名が坐れるようになっています。毎月、第二、第四土曜日に坐禅会を開催しておりますが、ご友人同士やサークル等でもご使用いただけますので坐禅をご希望の方は是非ご相談下さい。



袖ヶ浦の歴史

【連載】未来に伝えたいふるさとの歴史 II

袖ヶ浦市郷土博物館顧問

井口 崇

古代の火葬墓のはなし

私たちにとって身近な火葬の風習。奈良時代から平安時代にかけて、西上総の地域には数多くの火葬墓が営まれていました。今回から2回にわたって日本の墓制の歴史をたどりながら、この地に広がりを見せた古代の火葬について紹介します。

現代の日本は、99・9%が火葬によっているという、火葬大国となっています。かつては土葬が主で、近代になってから火葬が普及して今に至っているというのが大方の理解であろうと思われませんが、意外にも火葬の歴史は古く、その始まりは飛鳥時代(古墳時代終末期)にまで遡ります。そして採用された火葬は、それまで伝統的であった土葬とそれに伴う殯(もがり)という葬送儀礼については勿論のこと、従来の生死観を覆し、畿内で行する中央集権・律令政治の展開にも大きな影響を及ぼしていきます。

やがて、その火葬の風習は全国に広がりを見せていくのですが、袖ヶ浦周辺を含む西上総の地域は全国的に見ても数多くの火葬墓が発見されている地域として捉えられています。私たちの身近なところに残されている古代の火葬墓とはどのようなものなのか、どのような人物が火葬されたのか、なぜそこに火葬墓を営んだのかという謎に迫ってみたいと思います。

― 先史く古代の日本の葬法と墓制 ―

■土葬のはじまりとその展開

日本ではすでに旧石器時代から、墓の可能性ある遺構が発見されています。続く縄文時代(約1万6000年前〜約3000年前)には集落や貝塚の中に、掘

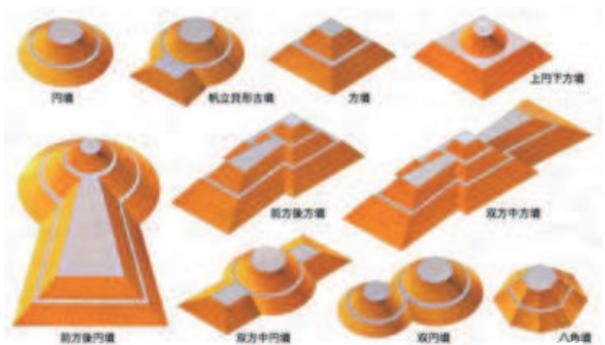
りくぼめた穴に直接埋葬する土坑墓、小児の場合には土器の中に入れて埋葬する土器棺墓などを営んでいました。火を用いた遺体の処理や埋葬もあつたようすが一般的ではなく、土葬が基本であつたようです。

縄文時代に続く弥生時代(約3000年前〜約1750年前)になると、九州や西日本では甕棺墓や石棺墓が知られています。東日本では土坑墓のほか、白骨化した骨を壺などの土器に入れなおして埋葬する再葬墓が採用されることが、弥生時代の中頃になると、方形に配した溝の内側に埋葬主体部をもつ方形周溝墓が近畿地方から伝わり、多くの地域で採用されていきます。方形周溝墓は袖ヶ浦でも比較的大きな集落に接して発見されています。小櫃川の北岸では蔵波や久保田の台地上、神納や下新田の台地上、永地や横田の水田地帯にある微高地、上泉や野里の台地上に。南岸では、大竹や滝の口の台地上に残されています。方形周溝墓は家族墓として発達しますが、その規模やそこから発見される副葬品などを見ると、一人あるいは一家族のために占められる土地や投入される労働力が次第に大きくなり、小さな地域ごとに特定の人物や特定のグループの墓域がつけられるようになっていくことがわかります。そして、富と権力の象徴である古墳の築造へと向かいます。

■古墳と厚葬

古墳とは、土を高く盛った貴族や豪族、有力者の墓のことであり、単に古いお墓という意味ではありません。古墳がつくられた時代を古墳時代とよんでいます。古墳は1700年前〜1300年前の3世紀後半から7世紀末にかけてのことです。壮大な前方後円墳が造営されたことはよく知られています。古墳は大多数の人を葬るために使用された集団墓地とは異なり、特定の貴族や権力者を埋葬するためにつくられたという点に、歴史的な意義があります。つまり、古墳の発

生は、権力者の登場を意味しているのです。それは前



古墳の形(デジタル大辞典より)

身の両脇には太刀や剣などが配されました。こうした副葬品は、単に高貴な身分を示すだけでなく、宗教的な意味合いをもつたものと考えられています。

古墳を造り、手厚く葬ることを「厚葬」といいます。豪華な葬儀が行われる時代を経て古墳時代も後期(6世紀頃)になると、儒教や道教の影響もあつて、権力者の葬儀に多くの財や労働力を費やすことをやめるようになりまます。このように経費節約と風俗を改めることを目的に、葬儀を簡略化することを「薄葬」といいます。『論語』には、厚葬を諫める記述があり、「棺の外側を包む構造のものを「椁」と呼び、「椁」のない「棺」だけの埋葬が薄葬であると考えられていたようです。

■大化の薄葬令

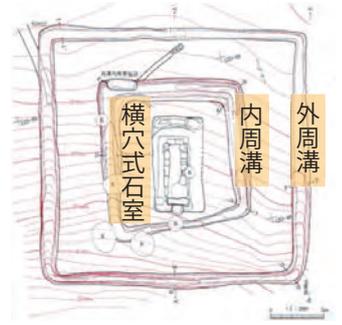
「薄葬令」は、大化の改新の一環として大化2年(646)3月22日に出された法令です。従来の古墳築造(厚葬)に著しい簡素化を求めたところから薄葬令とよばれています。王以下、上臣・下臣、大仁・小仁、大札以下小智以上、庶民にわけて、それぞれ墓の大きさ、役夫の人数、築造日数、葬礼に用いる帷帳(麻の単衣

方後円墳の機能であるといわれる踐祚・即位といった王権の授受・継承にかかわる祭祀と政の舞台といった機能が強く現われていると考えられるからなのです。遺体や副葬品を守るために造られた石室などの埋葬主体部の中には、銅鏡や多くの玉類などの宝器が置かれ、

の着物もしくは垂れ幕)の種類を定めています。また殯(死者を埋葬するまでの長い期間、遺体を納棺して仮安置し、別れを惜しみ、死者の霊魂を畏れ、かつ慰め、死者の復活を願いつつも遺体の腐敗・白骨化などの物理的变化を確認すること)を禁止したほか、殉死の強制や馬の殉葬、宝物の副葬、断髪や股を刺して哀悼を表すこと、誅(生前の功績・徳行をたたえ、追憶する弔辞)などを「旧俗」もことごとく禁じられました。併せて、庶民の埋葬については、「庶民の死者は土中に埋めよ。垂帛は匱布。一日もとどめることなくすぐ葬れ。」
うつくに：畿内より諸国に至るまで場所をきめて収め埋め、方々にけがらわしく埋めてはならない。」としています。「日本書記卷二十五 孝徳天皇」

薄葬令とは、墓地造営に費用をかけすぎる現状をいましめるとともに、中国の思想・風潮を導入しようとしたものであったのです。薄葬令を逆説的に読めば、それまでは厚葬や殯の習俗が庶民にまで及び、時には風葬のように長期間放置した遺体もまた存在していたということになるでしょう。仏教の公伝は6世紀の中頃ですから、薄葬令よりも100年ほど前に仏教を知っていたということになりますし、すでに推古天皇や聖徳太子、舒明天皇、斉明天皇なども薄葬を前提とした合葬(新たに古墳を造営せずに既存の親族の古墳に追葬されること)を望んでいたようです。しかし仏式葬儀としての火葬はまだ行われていませんでした。また、薄葬令は王(皇族の称号の一つ)以下庶民までの規定ですから、天皇は含まれていないのですが、その規定が厳格に守られたとは思えません。というのも、石室の壁画で有名な高松塚古墳やキトラ古墳などのように7世紀末〜8世紀の初頭頃のもので、皇族もしくは極めて身分の高い人物が葬られたと考えられている奢侈な古墳もまだ造営され続けていたからです。

袖ヶ浦市内では、薄葬令の頃(7世紀中頃〜後半)の古墳としては、神納にある雷塚遺跡の二重の周溝をもつ方墳、雷塚2号墳が知られています。その規模は、



雷塚2号墳の平面図と横穴式石室

①墳丘(盛土)の一边が10・0m〜11・6m。②内周溝外辺長13・8m〜15・2m。③外周溝外辺長24・5m〜25・5mになります。当時の測地尺である高麗尺(約35cm/尺)に換算すると、①②約30尺。②約40尺。③約70尺となり、規格性の高いものであることがわかります。房州石の切り石を積んで造った石室内には、大量の鉄鏃(鉄の矢じり)、刀子(小刀)、静岡県湖西市周辺産の須恵器、多くの玉類、在地産の土師器などが、副葬品として残されていました。この古墳の周辺には木棺直葬と思われる方墳もあり、方墳群として存在していたようです。いずれも終末期の方墳です。

こうした二重周溝の方墳は終末期の古墳の特徴です。富津市の割見塚古墳(一边107m)、木更津市の松面古墳(一边80m)が7世紀前半の首長クラスの古墳として知られています。また、木更津市請西の山伏作5号墳は、雷塚2号墳とほぼ同時期の二重周溝をもつ方墳で、その規模を雷塚2号墳と同じ方法で換算すると、40尺・50尺・60尺にほぼ整合する値になります。石室の造り方も房州石を用いた切石積で共通した構築手法がとられています。

■火葬のはじまり

日本における火葬のはじまりは、『日本書記』の後を受けた『続日本紀』の記録によると、日本で最初に火葬された人物は僧侶の道昭で、文武天皇4年(700)の

こととされています。道昭は元興寺の開祖で、72歳で没した時の遺言によって粟原寺で火葬されたといい、「弟子達遺勅を奉じて粟原において火葬す。天下の火葬此れより始まり」とあります。

考古学の成果では、縄文・弥生時代にも土坑の中などから焼骨が発見されており、古墳時代後期(6世紀後半頃)の段階になると木材を使って墓室をつくった上で、粘土で密閉してカマド状にし、遺骸を入れてそのまま墓室ごと火にかける方法で火葬し、そこをそのまま墓地とする埋葬例(カマド塚と呼ばれている)が各地で見られています。仏教の伝来後には、その葬法である火葬を採用するという動向が生まれてきたことは否定できません。しかし飛鳥時代から奈良時代にかけての、高僧や天皇、貴族の間に受け入れられ広がっていった火葬とは別のものとして理解しておくほうがよさそうです。

奈良時代以降、骨櫃、骨壺、骨袋に火葬骨を納める新しい埋葬のスタイルが定型化して日本各地に広がりを見せていきます。(以下、次号へつづく)

令和三年年表

一周忌	令和二年
三回忌	平成三十一年・令和元年
七回忌	平成二十七年
十三回忌	平成二十一年
十七回忌	平成十七年
二十三回忌	平成十一年
二十七回忌	平成七年
三十三回忌	昭和六十四年・平成元年
三十七回忌	昭和六十年
五十回忌	昭和四十七年
百回忌	大正十一年

禅寺の自然薯

真光寺の山では昔から質の良い自然薯が採れていた
 そうで、この地域の特産品の一つにしたいという住職
 の構想のもと、自然薯の栽培に取り組み始めました。
 2年目の今年は1キロを超すものを数多く収穫でき
 ようになり、販売にも力を入れております。
 山うなぎとも呼ばれ、滋養強壮、消化促進、美容健
 康に大変効果があるとされている自然薯をぜひ一度食
 べてみてください。



お寺のすぐ隣で栽培しています。



お寺や直売所でも販売中。



収穫した自然薯を持つ住職。重量は1.4kgと上々の出来です。

イベントだより



何でも自分でやってみることが大事！



久しぶりの感触に自然と笑顔が。



立派なはざがけが完成しました。

稲刈り



疑問、質問は尽きません。



衝撃の捕食シーン！



糸のように繊細なその姿に見とれます。

イトトンボの観察会

「イトトンボの観察会」ですが、それ以外の生き物との出会いもあります。今回はメインのイトトンボの他にアブがトンボを捕食する場面や地蜂が蜘蛛を生きたまま巣に持ち帰る場面など、とても貴重なシーンに遭遇することが出来ました。

今年にはコロナウイルスの影響で、お米づくりイベントも中止が相次ぎました。そんな中、やっと開催できたのが稲刈り行事でした。久しぶりに参加してくださった方をはじめ、大勢にご参加いただき、無事収穫を終えました。収量はそこそこですが、今年も美味しいお米が採れました。

自然学校イベントのご案内

皆様のご参加をお待ちしております！

- 2月14日（日） 野鳥観察会
- 3月27日（土） お花見トレッキング
- 4月11日（日） 田んぼの畔塗りと稲苗作り
- 4月18日（日） 巨木巡りと里山トレッキング
- 5月 9日（日） 田植え
- 5月29日（土） 水路の生き物観察会
- 6月 5日（土） 田んぼの草取りとホタル観賞
- 7月 3日（日） イトトンボの観察会

※各イベントの詳細は上総自然学校のHPをご覧ください。

上総自然学校フィールドの希少な生き物たち
第三回・サワガニ

詩人 大島健夫

淡水のカニといえば、多くの方にとって真つ先に思い浮かぶのがサワガニでしょう。しかし、このサワガニというのは非常に特殊なカニです。なにしろ千葉県産、いや、日本産のカニの中で唯一、一生の間、海と行き来をしないカニなのです。

実の所、だいたいのカニは、ふだんは陸上や淡水で暮らしているカニであっても、繁殖の際には海に降りてゆかなくてはならないのです。そして海で産まれた卵は、孵化した最初からカニの姿をしているわけではなく、まずゾエア幼生というプランクトンとして誕生し、次に変態してメガロパ幼生というまたちよつと違うプランクトンになり、さらに変態してようやく稚カニになり、海から川を遡って淡水に入っていくのです。ところがサワガニの場合はこの稚カニになるまでを全部、卵膜の内部でやってしまい、親と同じ姿で出てくるのです。サワガニの雌は初夏に50個くらいの卵を産み、孵化後も3、4日ほどおなかにかかえて過ごします。たまに子ガニをわしやわしやとたくさん抱いた母親ガニに出会うのはそういうわけです。こうした稚ガニが成熟するまでには3〜4年とけっこうかかり、その寿命は意外に長く、10年にも達します。あの小さなサワガニは、犬や猫と同じくらい生きるのです。

本州から九州までの、湧水のある水質の良い水場に生息するこのサワガニは、世界中で日本にしかない、日本の固有種です。ですが、日本にいるサワガニが全部同じようなものかという点、それは違います。

一生を海と行き来しない純淡水産であり、かつ、水から遠く離れられないので移動能力が低いということはどういうことか。それは、大げさに言えば、ある川

に住んでいるサワガニと、山をへだたてて隣の川のサワガニとは交流がなく、それぞれが閉ざされた個体群の中で永久にそのまま子孫を残し続けているということの意味します。つまり、地域ごとに遺伝的な分化が進んでおり、また、環境変化によって一度その地域のものが絶滅してしまったら、それはもう取り返しがつかず、その個体群を再び復活させる手立ては全くなくなってしまうということを意味しているのです。別の土地から持ってきたサワガニを放流しても取り返しなどつかないのです。今そこにいるものが住み続けることのできる環境を保つことができないのであれば、サワガニにとって、悲しいかなそれは保全でも保護でもないのです。

このサワガニには、青い色のタイプと、赤い色のタイプがあります。先に述べたような経緯をたどって稚ガニとして生まれてきた時点ではみんな赤茶色をしています。おとなになると赤青どちらかの色になります。



青いサワガニ

房総半島、とりわけ南部のサワガニは、青白い色をしたものが多く、南房総で赤いカニを見るとかえってびっくりするほどです。ですから、サワガニというのは青いものだと思っていられない方もおられるかと思うのですが、この青いカニというのは日本全国的に見ると極めて少数派です。水生生物の研究者の方でも、県外のご出身の方は、青いサワガニを見て驚かれたりするところがあります。かの「猿蟹合戦」に出てくるカニは、おそらくサワガニだと思われませんが、世に出回っている「猿蟹合戦」のどのバージョンを見ても、カニが青く描いてあるのはありません。どれもこれもみんな赤いカニが描いてあります。ニホンザルというの

は顔もお尻も赤いですから、カニは青い方が対比が際立つと思うのですが・・・。

上総自然学校のフィールドには、青いカニと赤いカニが両方とも半々くらいで混在しています。私の経験から言うと、そんな場所はなかなかありません。複雑に入り組んだ谷津地形が健全に保たれていることが、遺伝的に均一でない集団の存在を許容することにつながっているのかもしれない。また、たまにですが、青と赤の中間的な紫がかつたカニもいます。サワガニというのは人間が食べても美味しいものですから（寄生虫がいるので生食は危険です）、他の動物にもよく捕食されます。困ったことには、アライグマやイノシシといった、外来種や国内外来種の動物がサワガニをよく捕食するのです。田んぼをこわした外来の動物から守ることは、お米を守るだけでなく、サワガニのような在来希少な生き物を守ることも必要なのです。



赤いサワガニ

サワガニ Geothelphusa dehaani
十脚目サワガニ科
千葉県レッドリスト・C（要保護生物）

大島健夫

詩人。1974年千葉県生まれ。2014年、24時間ワンマン朗読ライヴ完遂。詩の朗読の日本選手権・ポエトリースラムジャパン2016優勝。パリで開催されたポエトリースラムW杯で準決勝進出。一方でネイチャーガイドとしても活動。千葉県生物多様性センター勤務。環境省希少野生動物種保存推進員。近著「外来生物のきもち」（メイツ出版）好評発売中。

行事予定

“新年の御祈願、厄除けは真光寺で”
年頭祈禱法要のご案内（元日～3日）



今年完成した薬師堂で新年の安全・厄除け・諸願成就を祈願しませんか？
ご祈禱を希望される方は木札を作成いたしますので、来山前にお電話等でお申し込み下さい。
事前申込みが無い場合でもお受けできますが、お待たせすることがございます。
今回より30分ごとに合同でのご祈禱になりますのでご了承ください。

受付時間 午前9時～午後4時まで30分刻み（元日～3日 ※3日は正午まで）
法要時間 約15分
祈禱料 3,000円～5,000円程度
願意 木札に書き入れます、下記より2つまでお選びいただけます。

- ①家内安全 ②諸災消除 ③諸願成就 ④如意吉祥 ⑤交通安全
- ⑥商売繁盛 ⑦厄除守護 ⑧身体健全 ⑨当病平癒 ⑩身体堅固
- ⑪良縁祈願 ⑫安産祈願 ⑬合格祈願 ⑭身心堅固 ⑮学業増進
- ⑯五穀豊穡 ⑰千客万来 ⑱社運隆昌 ⑲風調雨順

その他、車の祈禱等ご希望に応じてご祈禱いたします。

前年の御守、お札等がある方（当山以外の御守でもかまいません）は
ご持参下さい、お焚き上げいたします。



●御守り、おみくじの販売

例年の御守りの販売に加え、おみくじの販売をはじめます。是非真光寺
のおみくじを引いて一年の運勢を占ってみて下さい。



行事予定

真光寺と駅、バスターミナル間の送迎もありますのでご希望の方は裏表紙をご参照ください。

修正会 《檀信徒》

日時：1月3日（日）14時より
檀信徒皆様の一年の家内安全を祈願し、ご祈祷法要を行います。

山門春彼岸法要 《檀信徒》

日時：3月20日（土祝）14時より
春の彼岸法要を行い、ご先祖さまを供養致します。法要後には余興を予定しております。

縁の会春彼岸法会 《縁の会会員》

日時：3月20日（土祝）11時より
縁の会合同での春彼岸法要を行います。昼食（お弁当）のご用意をいたしますので、参列申込みの際にお弁当の要・不要をお伝え下さい。欠席の場合でも御回向のみ、お塔婆のみのご供養もお受けいたしますのでお申し付け下さい。
※要予約

戒名を考える会 《縁の会会員 特に未授戒の方》

日時：3月16日（火）午前11時より午後2時半頃
費用：3,000円（昼食付）
定員：20名

戒名を考えることは、人生を振り返ることです。午前中は戒名にまつわる仏教知識を学び、昼食に精進料理を頂きます。午後は住職指導のもと、実際に戒名を考えます。考えた戒名は後日の授戒式にて正式に住職よりお授けし、位牌に刻銘の上、観音堂にご安置します。

※要予約
※持ち物：漢和辞典

七日法要 《縁の会会員》

日時：1月7日（木）11時より授戒式・月例供養、昼食（お餅つき）午後は年頭祈祷法要
2月7日（日）11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は坐禅・写経・写仏
3月7日（日）11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は坐禅・写経・写仏
4月7日（水）11時より授戒式・月例供養、昼食（お弁当）午後は花まつり法要と植樹祭
5月8日（土）11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は坐禅・写経・写仏
6月7日（月）11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）午後は坐禅・写経・写仏

※要予約
※午前、午後のみのお出席もできます。

ご詠歌練習日 《どなたでも参加できます》

新型コロナウイルス感染防止のため、只今練習を休止しております。再開が出来次第下記の日程で行う予定です。

2月	9日・23日	5月	11日・25日
3月	9日・23日	6月	8日・22日
4月	13日・27日	7月	6日・20日

時間 5月～9月は19時半より、10月～4月は19時より

※ご詠歌はお釈迦さまの御教えを讃え、ご先祖さまをうやまう心をやさしい旋律にのせお唱えするものです。

真光寺囲碁の会 《どなたでも参加できます》

日時：4月14日（水）～15日（木）
14時から翌日13時30分解散

費用：8,000円 1泊3食

場所：真光寺

初心者の方も大歓迎！日本棋院六段の先生に基礎から教わり、囲碁をはじめてみませんか？日帰りのご参加も可能ですのでお問い合わせください。

※要予約



行 事 予 定

仏像彫刻体験教室 《どなたでも参加できます》

日時：毎月第1・第3水曜日
13時30分～16時30分

費用：3,500円 / 1回参加

場所：真光寺（参加者が3名以上で開催）

仏師の先生にご指導頂き仏像を彫っていきます。初めての方でも大丈夫です。それぞれの方に応じたペースで、取り組みます。 ※要予約

精進料理と聖典講読の会 《どなたでも参加できます》

日時：1月25日（月） 4月28日（水）
2月24日（水） 5月25日（火）
3月30日（火） 6月29日（火）

午前11時～午後2時30分

費用：3,000円 昼食付（精進料理）

場所：真光寺

住職による仏教解説の後、一緒に食事をして、午後は坐禅や写経をいたします。 ※要予約

坐禅会 《どなたでも参加できます》

日時：毎月第2・第4土曜日
15時～16時30分

坐禅初心者の方もやさしくご指導いたしますので気軽にご参加ください。足が組めない方も椅子坐禅で無理がないように参加いただけます。休憩をはさんで2回坐禅を組みます。

※現在真光寺の各行事は慎重に状況を判断し、新型コロナウイルス感染予防対策を実施しながら行っております。今後の感染拡大によっては、中止する可能性もございますので、予めご了承ください。ご参加ご希望の場合はご確認の上、お申し込みください。

送迎のご案内【午前】

□電車の方

- ・上り電車の方（君津発千葉行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」10時05分着
- ・下り電車の方（快速君津行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」10時10分着

□バスの方

【土日祝】

- ・品川発9時00分→袖ヶ浦BT9時52分着
- ・横浜発9時00分→袖ヶ浦BT9時46分着
- ・川崎発8時55分→袖ヶ浦BT9時57分着
- ・新宿発8時50分→袖ヶ浦BT9時48分着
- ・東京発9時15分→袖ヶ浦BT10時05分着

【平日】

- ・品川発9時00分→袖ヶ浦BT9時52分着
- ・横浜発9時00分→袖ヶ浦BT9時46分着
- ・川崎発8時40分→袖ヶ浦BT9時30分着
- ・新宿発8時50分→袖ヶ浦BT9時48分着
- ・東京発9時15分→袖ヶ浦BT10時05分着

送迎のご案内【午後】

□電車の方

- ・上り電車の方（快速逗子行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」13時05分着
- ・下り電車の方（千葉駅発木更津行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」12時50分着

□バスの方

【土日祝】

- ・品川発12時00分→袖ヶ浦BT12時52分着
- ・横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時46分着
- ・川崎発11時45分→袖ヶ浦BT12時47分着
- ・新宿発11時50分→袖ヶ浦BT12時55分着
- ・東京発11時50分→袖ヶ浦BT12時40分着

【平日】

- ・品川発11時50分→袖ヶ浦BT12時42分着
- ・横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時46分着
- ・川崎発10時45分→袖ヶ浦BT11時47分着
- ・新宿発11時50分→袖ヶ浦BT12時55分着
- ・東京発11時50分→袖ヶ浦BT12時40分着

各種お申込み連絡先

真光寺 〒299-0201 千葉県袖ヶ浦市川原井634

TEL 0438-75-7414 (代表) TEL 0438-75-7365 (縁の会事務局) FAX 0438-75-7630

e-mail ennokai@shinko-ji.jp (縁の会)

satoyama@shinko-ji.jp (上総自然学校)